**11月22日　株式会社吉岡精工　代表取締役　吉岡　優　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

まず最初に述べられた、今日の講義のテーマ「小さな会社から一般企業へ」というのに興味を持ちました。やりがいのある会社へ、新しいことの取り組み、変えることをテーマにしてきたのにも、新しい自分を常に探している気がして心惹かれました。実際に外部環境が変化する中で、変化を予測し、その都度内部環境を変えていく。その中で変化に対して柔軟な企業が生き残っていくこの世の中のシステムにも気づくことができましたし、新しい発見の多い講義内容でした。それに加えてこれからの長い人生で充実した生活を送るために、挨拶・面倒なことを率先してやる・未来予想図を描く。この3つのことを日々意識していくだけで自分の思い描いている人生になると思いました。(経営学部国際経営学科　1年)

O社が内製化の要請を出したところから始まった吉岡精工さんの辿った変化の道程がとても興味深かったです。他の講演者の方も仰っていたのですが、時流に乗れないということはやはり大きく事業に影響するのだと感じました。またブランド戦略についてのお話にあった「売り物は”もの“ではない。お客様の問題を解決するための価値である」という言葉は深く印象に残りました。下請けから自立していくストーリーがまるで小説のようで、とても楽しくお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。（経営　経営学科　１年）

本日の講義内容は理系の専門的なものだったが、外部環境の変化に対応した経営方針の転換とその結果、内部環境の転換からの戦略設定など、ベンチャー企業に立ちふさがる壁やその乗り越え方を教えてくれるもので、大いに参考になった。「なんでもやるは命取り」という言葉はとても印象に残った。苦手分野に手を出すよりも自社の強みを知り、それを追求する事で弱みをカバーすべきということは、手広く様々な分野を手がける方が利益が出るだろうと思っていた私には驚きで、考えを改めさせられた。（経営学部　1年）

多くの家族が主となって経営している会社において、その時期成功していれば2代目、３代目…など後代はそのいすで安心して経営戦略を変えたりすることはなかなか考えられないものか、と思っていたけれど、吉岡さんは将来に目を向けて変革を使命としているところがとても尊敬できると思いました。「当社は何屋なの？」の問いかけにあるように、何か壁につき当たったときは、根本に立ち返って、突き詰めて考えていくことが重要なのだということを学びとれた。（経営学部・会計・情報学科・１年）

外部環境の変化や内部環境の転換のお話が、「他者と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という感じだなと思いました。私がインターンシップをしている企業も、問題解決型の企業であるという印象を受けたので、今回の講義内容が興味深かったです。取引相手の言葉をそのまま受けとるのではなく、何を言っているのか深く吟味する必要がある（判断材料が乏しいという場合に限り質問できる）お仕事なので、ほかの業界も同じようになっていたんだなと驚きました。B2Bの仕事というのは、他社の成果を出すために動かなくてはならないので大変だと思いました。納品してから入金までの期間が長いと、きちんと先を見て動けなければならない（つぶれるかも）ので難しそうです。（教育人間・学校教育1年）

どんなに品質のいいものを作っても、コストが高くなってしまったり、時代の流れに合わないと上手くいかないことがあるとわかった。相手の想いをくみとることは、日本人は優れていて、コミュニケーションの中でも特に重要なことだと感じた。価格だけで判断するユーザーをターゲットにするのではなく、品質を重視するユーザーをターゲットにする。ユーザーを選んでいくことで、いい製品が作れるとわかった。(経済学部・国際経済学科・1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

「３K（きつい、汚い、危険）＋３K（暗い、くさい、高齢）というあまり良いとは言えない環境だったが、それを嘆いていても何も始まらないから、『変える』ことが自分の使命だと思っていた。」という言葉に感銘を受けた。「どの場所に行くかではなくその場所で何をするか何ができるか考えること」はとても大切な基本の考えであるのだと感じた。そして今私にできることといえば面倒なことをやってみること、そうして自分の強み弱み、苦手分野得意分野を把握して未来に点を打ち込んでいきたい。（経営学部・経営学科・１年）

**授業スタッフの感想**

　吉岡さんが最後の方におっしゃっていた、「新規の取引相手には、製品サンプル一つ送るだけでも、書面で契約を交わす。」という言葉に、自分は衝撃を受けた。考えてみれば、そこからさまざまな情報が流出してしまう可能性があるのだから当たり前、また、興味半分の輩をいちいちかまっているわけにはいかないのだから当たり前だ。しかし自分は春学期からのこの授業で企業のいいところ、きれいなところばかりに目がいって、どこか現実味のない、自分とは違う世界の話のように聞いていたように思う。これからはもっと身近なことと考え、本当に正しいことなのか、おかしなことはないか考えながら講義を受けようと思う。